

此書夏の要水に好して、何の回着もしなりのみならず、及て七十七名に新しく解雇
 を受給し、空宿女工は、監禁して会社内から一歩も外に出さず、大阪から、雇入れを
 「せ荒く、水男」数万名の異力園を以てか、弱り女工を威嚇し、労働を強制して
 居ます、斯くて紡績女工が、印度米と、妻三割の飯を食ふ時、重役の妻女は、帝
 廟の食堂に、九思堂の宿舎に十八名の女工の、まの向き、懸勞せる、寝姿を見る時、重
 役の妻女は、宏壯なる邸宅に安臥する。

義墳を以て重役をこらしむ

問題の労働の問題、階級利益の問題のみで甘んじなかつた、重大な人道上の問題
 である。

日紡重役の内にも、個人として、三派の人もあるであらう、省みて良心の苦しみを
 感ずる人もあるであらう、しかしながら、小敷資本家の私利私欲の爲に可
 得なる少女を搾取し、監禁全痛に扱ふ、賃金を奪はる、会社の懸念方針を決
 定する、その重役の重役である。
 労働工少女の生血を吸ふものは、回紡の重役である、鬼の様な人間でなくとも、
 本心から、重役諸君は、詰り、鬼の心で、鬼である、その鬼心は、血を吸
 下の労働したくも、剛志として、研究を構へて居る。

東京在位の回紡重役は

- 有賀 松彦 (神樂坂下)
- 三野村 倉二 (長島寺近く)
- 大坂 在位 (回紡重役)
- 菊池 崇三 (社長) 元五寺上本町九ノ一
- 福本 元三勉 東成発射野五七〇
- 金澤 仁作 西区新通四ノ二ノ三
- 松村 謙成 住吉九六三ノ三
- 松本 宗十郎 住吉五五寺一也也〇
- 竹屋 昭衛門 東区南本町一也ノ三八
- 平野 復男 西成五出九九五ノ一
- 菊池 利房 東区上本町八ノ二三
- 廣海 三三郎 西区江之子島東三八八

その他 本塚利一郎、小森源吾、道坂佐七、
 針村奇男、倉自毅三、田代重三